

Express5800/T120h (2nd-Gen) ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠に恐れ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

■ 注意事項

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、下記サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」で、「3170102319」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<http://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<http://www.support.nec.co.jp/View.aspx?isIntra=0&id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認の上、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。

Web に掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-006.04 以降を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」で、「S8.10-006」を入力して検索してください。)

なお、Starter Pack バージョン S8.10-004xx, S8.10-003.xx, S8.10-002.xx (xx は任意の数字) は使用できません。

● VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。Web に掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Agentless Management Service」を検索し、【最新版】と表示された「Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver (VMware ESXi 6.x 版(x=5 または 7))」を適用してください)

2. WBEM プロバイダおよび CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「WBEM プロバイダ」を検索 「【最新版】WBEM プロバイダ および CLI ツール (VMware ESXi 6.x 版(x=5 または 7))」を適用してください)

3. VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバ一覧」を選択)



*CBZ-032553-001-01 *

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間 (POST (Power On Self Test) 実行中も含みます) は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

例えばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース：[情報] - [概要] ページにおけるUUID、UUID (論理) が不正な表示になる場合があります。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、次項の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項


iLOの再起動中にPOST実行や設定変更などの処理を進めてしまうと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しないことや、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがありますので、「ユーザーズガイドの3章 - 2.3 キー操作と画面の説明 - システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」でのiLOの再起動に対する操作」を参照してください。

● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLO5ファームウェア1.43以降でiLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[アクセス設定]-[アップデートサービス]-[ダウングレードポリシー]の設定を『ダウングレードを永遠に不許可』に設定を行わないようにしてください。

『ダウングレードを永遠に不許可』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、『ダウングレードを永遠に不許可』に設定後は、iLOに対して永続的な変更が行われるため、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定に設定を行った場合も、リセットされず『ダウングレードを永遠に不許可』を維持します。

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO5ファームウェア1.43以降をご使用の場合、[情報]-[セキュリティダッシュボード]及びiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが常に表示されます。

RBSUの設定やiLOの設定の内容次第で、iLOセキュリティの状態がリスク状態 (赤色) で表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO5ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要] 設定を有効に設定した場合の注意事項」に注意事項がありますので、ご確認ください。

● iLO WebインターフェースのUUID不正値表示について

POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information]-[Overview] ページのUUID、UUID (論理) の値が稀に不正な表示となることがあります。

不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● **iL0 Webインターフェースのネットワーク情報の表示について**

ファイバーチャネルコントローラーが実装されiL05ファームウェア1.43以降/iL05日本語言語パック1.40が適用されているシステムで、iL0 Webインターフェースの言語に日本語が選択されている場合、[システム情報] - [ネットワーク]で表示されるファイバーチャネルコントローラーの“ポートのステータス”が『下へ』と表示されます。

これはファイバーチャネルコントローラーの接続が『ダウン』の状態であることを示しますので、読み替えてご利用ください。

● **iL0の時刻についての注意事項**

iL05ファームウェア1.45未満でiL0のSNTPの設定が無効の場合、iL0の再起動を行うとiL0の時刻がずれてしまう場合があります。

iL0 WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。

iL0のSNTPの設定方法については、iL05ユーザズガイドを参照してください。

● **iL0 Webインターフェースから[ホスト認証が必要]設定を有効に設定した場合の注意事項**

「セキュリティ > アクセス設定 > iL0」にある[ホスト認証が必要]を『有効』に設定する。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“ Remote Insight/ Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出 “のメッセージが多数表示されます。
- ・ Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・ エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・ RAID 通報
- ・ サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・ iL0 が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、及びイベントログ採取機能

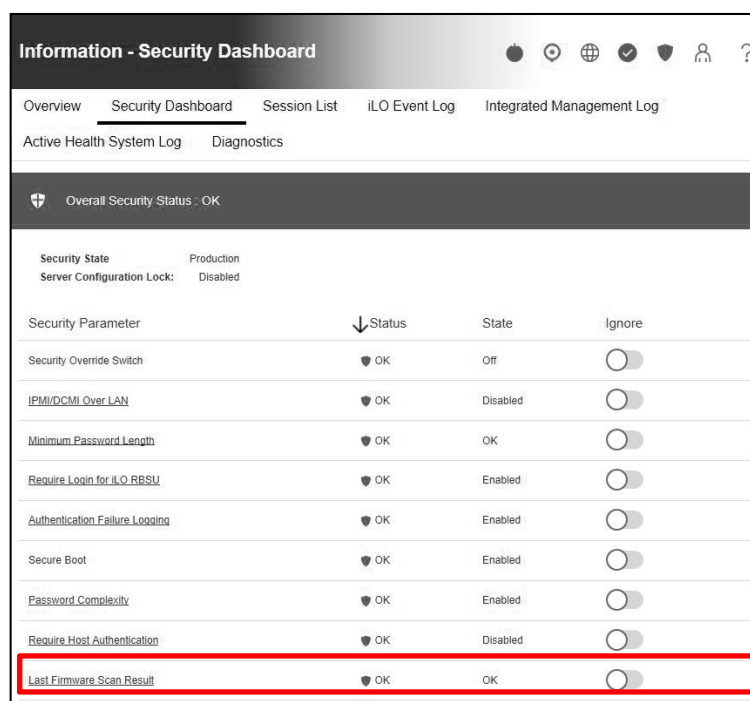
● iLO 1.43以上 ご使用時の注意事項

iLO5ファームウェア1.43以上をご使用の場合、[Information] - [Security Dashboard]に[Last Firmware Scan Result]が表示されますが、本ハイパーリンクをクリックしないでください。

誤ってクリックした場合、Webページ内のメニュー間移動が出来なくなります。その場合、ブラウザのリロードボタンをクリックするか、もしくは一旦iLO Webインターフェースのログアウトを実行して再度ログインしてください。



日本語表示の場合



英語表示の場合

● EXPRESSBUILDERでのWindows「手動」インストールについて

EXPRESSBUILDER から Windows をインストールするとき、「手動」オプションを選択した場合であっても、インストール先ディスクのパーティションがすべてクリアされます。再インストール時、ユーザーデータが存在する場合は注意してください。

● VMware ESXi環境でのAgentless Management Service (AMS)の注意事項

VMware ESXi 6.5, またはVMware ESXi 6.7の環境にAgentless Management Service (AMS) version 11.4.0がインストールされている場合、VMware Update ManagerによるVMwareシステムの更新が、/tmpディレクトリへステージングするための空きがないことを示すエラーで失敗することがあります。

/tmpディレクトリの使用可能なディスク容量に依存する他のアプリケーションでも同様に失敗することがあります。VMware ESXiホストの/tmpディレクトリにある“ams-bbUsg.txt”ファイルのサイズが時間の経過とともに増加するためです。空き容量を確保するために“ams-bbUsg.txt”ファイルを定期的に削除してください。

※ファイルを削除した場合は再度ファイルが作成されます。また、VMware ESXiホストを再起動した場合も当該ファイルは削除されますが、再起動後に再度作成されます。

/tmpディレクトリの容量が256MBである場合、2か月程度で上限に達することがあります。1か月に一度を目安に削除してください。

※ご使用の環境の/tmpディレクトリの容量に比例してファイル削除の実施頻度を変更していただけます。

例) /tmpディレクトリの容量が512MBである場合、4か月程度で上限に達することがありますので、3か月に一度を目安に削除します。

本事象はAgentless Management Service (AMS) 11.4.5で修正されています。

VMwareのバージョンによってAMSのダウンロードサイトが異なりますので下記のサイトをご確認いただき、AMSのアップデートを行ってください。

■ ご使用のOSがESXi6.0の場合

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010108698>

■ ご使用のOSがESXi6.5の場合

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010108699>

■ ご使用のOSがESXi6.7の場合

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010108700>

◆/tmpディレクトリの容量は以下のコマンドを実行することで確認することができます。“tmp”の行を確認してください。

```
# vdf -h
:
Ramdisk          Size      Used Available Use% Mounted on
root              32M        2M       29M      7%  —
etc               28M      172K       27M      0%  —
opt              32M      564K       31M      1%  —
var              48M      448K       47M      0%  —
tmp             256M      276K      255M      0%  —
:
```

◆Agentless Management Service (AMS) のバージョンの確認方法には以下の2つの方法があります。

・対象装置のOS上で確認する方法

(1) コンソール端末から以下のコマンドを実行します。

```
# esxcli software vib get -n amsd | grep Version
```

(2) コマンド実行結果から「600.xx.x.x-…」、「650.xx.x.x-…」などのxx.x.xの箇所を確認します。

・iLO Web インターフェースを利用して、リモートから確認する方法

(1) リモート環境において、WebブラウザからiLO Web インターフェースにログインします。

(2) 左メニューの「ファームウェア & OSソフトウェア」を選択し、「ソフトウェア」を選択します。

(3) 画面の「Product Related Software」の「amsd」のバージョンを確認します。

※「600.xx.x.x-…」、「650.xx.x.x-…」など、xx.x.xの箇所を確認します。

● **内蔵 DVD-ROM (N8151-137/138) 表示について**

System ROM のバージョンが v2.10 (05/21/2019) 以降の場合は、Embedded SATA Configuration 設定(*1)を [Smart Array SW RAID Support] 設定時、運用環境により Disk Utilities メニュー(*2)に内蔵 DVD ドライブ情報が2つ表示されます。

どちらのドライブを選択した場合でも同じ内蔵 DVD ドライブの情報が参照できます。

(*1) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」

(*2) 「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

● **ESMPRO/ServerManager (Windows版) およびエクスプレス通報サービス (MG) に関する注意事項**

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) およびエクスプレス通報サービス (MG) のバージョンの組み合わせによっては ESMPRO/ServerManager (Windows 版) および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。

各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ **ESMPRO/ServerManager (Windows 版) に関する発生現象**

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
Version 1.40 以降	Version 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> 構成タブ - サーバー状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示される リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	Version 6.41 未満	<ul style="list-style-type: none"> アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ **ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のアップデート方法**

(1) 以下より最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>

(2) 「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストレーションガイド (Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

◆ **iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象**

※エクスプレス通報サービス (MG) をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
Version 1.40 以降	ilo_jp.mtb Version 1.1.0 未満	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。
	iml_jp.mtb Version 1.3.0 未満 ※iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルは2種類あります。	

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下より最新版の受信情報設定ファイル(iilo.jp.mtb、iml.jp.mtd)をダウンロードします。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>

iilo.jp.mtb、iml.jp.mtdはMGMTB.zipに包含しています。

- (2) 「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド(Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。

- (3) (1)でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。

「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド」は以下のURLからダウンロードしてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

- ・ Server Health Summary で確認する方法

サーバー本体のUIDボタンを押下して、サーバーに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します(Server Health Summaryの詳細はiLO 5 ユーザーズガイド参照)。

- ・ ネットワーク経由で確認する方法

iLOにネットワーク接続可能な場合、ブラウザからiLOにログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」からiLOのバージョンを確認します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版)のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager のWEBにログインします。

- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。

- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド(Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● EXPRESSBUILDERヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は、メンテナンスガイドの方を優先してください。

■ 本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2019年 12月 2版

— M e m o —